

港北区災害ボランティア連絡会ニュース



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

FB 港北区災害ボランティア連絡会

94号

2021年7月



* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

水害時の避難情報大幅変更 率先避難者がみんなを救う

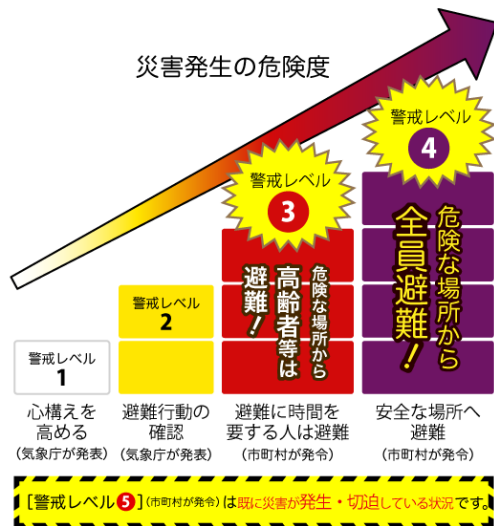
「避難指示」=全員避難 一逃げ遅れゼロへ

台風や集中豪雨による出水被害が毎年繰り返される災害大国日本です。水害の場合に人的被害を減らすために市区町村が発する避難情報が、5月20日から変更になりました。

右にあるようにレベル3の避難準備・高齢者等避難開始が「高齢者等避難」、レベル4の避難指示・避難勧告が「避難指示」と併記されているわかりにくさを解消して一本化されました。わかりやすさを求める背景には、なかなか避難の腰を上げない住民が多いことがあります。

内閣府 HP より

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を判断したときに発令)
4	避難指示※2	避難指示(緊急) 避難勧告
3	高齢者等避難※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)



災害時の情報でわかりやすさはとても大事なことですが、住民側がその情報の意味をきちんと理解しなければ、何回改定しても意味がありません。

助けられる人から助ける人へ

「津波てんでんこ」の深い意味

三陸で伝えられるこの言葉を、単に地震が起きたら家族のことさえ気にせずてんでんばらばらに逃げようと、ある意味では利己的にも聞こえる捉え方を変えたのが、釜石市で長年防災教育を指導してきた群馬大学の片田教授(現東京大学)でした。

片田教授は「子供たちの命を救うためにはどうしなければならないか」を親につきました。その中から「僕たちは地震が来たら必ず逃げるから、お母さんお父さんも迎えに来ないで必ず逃げて」=子どもも大人も率先避難者となる事で津波てんでんこをバージョンアップしたのです。その結果の「釜石の奇跡」なのです。

ところで私たちには率先避難者になる覚悟や準備はできているでしょうか。水害被害はハザードマップで確認できます。雨の降り方から被害の出る予想も立てやすいものです。逃げる時間が読めるマイタイムラインを活かしましょう。連絡会会員が地域での率先避難者になれるようになりますね。
(宇田川)

ハンディを持っている人が 困っていることを知ろう

いろいろな人がいるのが世の中です。高齢者や赤ちゃんはだれでも出会いますが、障害者とはなかなか出会いません。車いす利用者や視覚障害者、連絡会会員にもいらっしゃる聴覚障害者等はまだイメージしやすいものの、知的障害者とはどう接すれば良いかとなると戸惑う人も多いと思います。同じ事は外国人にも言えるのではないのでしょうか。しかし災害時にはそれらの人々はより大きな困難に直面することが過去の災害現場から知ることができます。情報を得にくい、避難所環境になじみにくい、必要な物資が手に入らない、などなど。

このシリーズではそういった人々に、どうすれば適切な支援ができるのか当事者の方から教えてもらいます。

――第1回――耳が不自由な人の場合

私を含めて日常生活で耳が不自由な方々の困り事ですが、最近だと新型コロナウイルスの影響でマスクを多くの方がされていますが、マスクで表情や口の形を読み取れないことです。

耳が不自由な方々は、健常者と会話する時は「口話法」で顔の表情や口話を読み取ろうとしますが、マスクがあると何を言っているのか全く分からないのです。

例えば、コンビニでの精算時に何か言われる(例:お弁当温めますか?袋はどうしますか?など)のですが、全くわからないため、スマホに「袋はあります」などと打っておき提示するなどの対策が必要となります。

港北区聴覚障害者協会 近藤寿一郎

熊本地震から5年

～車中泊と在宅避難～

熊本地震から5年がたちましたが、52世帯152人が現在も熊本益城町の仮設団地に身を寄せています。2016年の熊本地震では余震を恐れ、車中泊した被災者が相次いだことで健康被害(同じ姿勢でいることで血栓が生じ、体調不良を引き起こすエコノミー症候群)が相次ぎました。

今回のコロナ禍で災害時「在宅避難」ということが言われ始めていますが、様々な理由で、車で寝泊まりを考えている住民もきっと多くいるのではないのでしょうか。

読売新聞の調査によると、災害時に避難所ではなく車で寝泊まりする住民を想定して対策を取っている自治体は、都道府県や政令指定都市など主要131自治体の7割に上ることが分かりました。対策には災害の種類で違いが出る場合もありますが、地域の事情などでも違ってくるでしょう。調査では、車中泊への対応を「検討中」、または「取っていない」と回答したのは39都道府県にのぼったとあります。調査時に出た対策の主な事例もまとめてあります。(2021.4)

港北区の広報は「避難行動を考えよう」という見出しで『震災時、自宅で生活が出来ない場合には地域防災拠点へ避難し、自宅が無事な場合には自宅で避難生活を送りましょう(在宅避難)。家の中の安全対策や備蓄などの準備を進めましょう』と書かれています。(2021.3)在宅避難を考える時には日頃の対策が必要となります。(家の中の安全対策:飛

福島市	スーパーなどと連携し、車中泊用の駐車場を確保
埼玉県	弾性ストッキングを備蓄し、災害時に被災自治体に配布
愛知県豊橋市	保健師が巡回し、注意点などをまとめたチラシを配布。車中泊を想定した訓練も実施
岡山県倉敷市	食事を配布し、トイレを確保。長期になる場合は避難所への移動を要請
熊本県	災害医療チームと連携しエコノミークラス症候群の発生状況を把握、重症者は病院へ

散防止フィルム、家具転倒防止器具、棚や扉などが飛び出ないようにする留め金具、テレビ台などの家具固定)在宅避難をする場合でも、地域防災拠点で水・食料や診療所の開設状況の情報などが得られます。(自宅避難

子ども家庭支援課は災害時にはボランティア班となり私達と一番連絡を取り合う関係の部署となります。その課長さんが変わりました。横浜出身だそうです。

新課長着任・よろしくお祈いします

4月1日に港北区子ども家庭支援課長に着任いたしました廣瀬です。

様々な災害を経験する度に、一個ずつ家庭の防災グッズを揃えているような状況で、決して人よりも防災に対する備えが十分に出来ていると胸を張っていえる状況ではありません。しかし、東日本大震災以降、財布には必ず携帯トイレが2つ入っており、お札が一枚も入っていないときでも、携帯トイレだけは入っています。特に、コロナ禍では、電子決

を防災拠点に報告が必要)

「車中泊」と「在宅避難」を考える時、健康被害、駐車スペース、備蓄品、日頃の対策などまだまだ問題が山積みです。家族で話し合っておくことも大切です。(付岡)

済で済ませることが多くなったため財布を必要としない日も多いのですが、携帯トイレのためにすっからかんの財布を持ち歩いている感じです。

度重なる災害で、区民の方の防災意識は年々高まっているのを肌で感じています。特に近年は震災に限らず風水害などの影響も深刻であり、またコロナウイルス感染症対策なども求められていることから、様々な視点での備えが必要になってきています。災害ボランティアの皆様の知識と経験を活かし、一緒に取り組んでいければと考えております。どうぞ、よろしくお祈いいたします。

子ども家庭支援課課長 廣瀬綾子

リレー連載 我が家の防災 ③〇 --- 吉澤さん家の防災 ---

我が家にはペットが居ますので、自宅避難を考え、改めて家の備えを見渡してみました。

食器棚にはフックを付けています。夜は必ず止めています。オール電化の家ですので、カセットコンロと予備のガス、厚手の鍋の準備があります。お米は余裕を持って買い置きしてあり、水はペットボトル6本入りの1箱はあります。これでご飯は鍋にてコンロで炊けます。ご飯のお供は、ふりかけ・焼きのり・缶詰類・佃煮・漬物・梅干し・卵がありました。カップめん・インスタントのスープ類・みそ汁・カレーのレトルト類・炊き込みご飯の素などもありました。これらの食品は食べたらいしをしてあります。ストレスや疲れると甘いものが欲しく



なるので、日保ちのする一口羊かんは有ると良いようですが、袋菓子がありました。

食べ物以外では最近、災害時のトイレを買いました。生活用水はエコキュートのタンク水を使うことができます。トイレトーパー・ボックスティッシュ・マスク・消毒液は買い置きが

あります。懐中電灯・ランタン・缶入りローソクもありました。つい先日、園芸店で買い求めたミニトマト・ししとう・つるむらさきをプランターに植えました。育てる楽しさと、もしもの時の非常食にも…と考えました。(笑)

車のガソリンはギリギリまで空にせず、残り二目盛り位でスタンドに行くようにしています。(東日本大震災時にはスタンド大渋滞になりました)携帯電話の充電量にも気を付けています。

家族で命を守るのに、あと何を、どの位、ど

うすれば良いのかわかりません。最近の地震速報のTVでのテロップもとても気になります。災害は地震ばかりとは限りませんが、自分も年齢共に災害弱者になって行きますので、日々何事も起こらないように願うばかりです。(吉澤宥英)

*東日本大震災の時はガソリン不足のため全国のボランティアが東北に行くことができず、支援が遅れる結果となりました。その轍を踏まない対策はとても大切です。

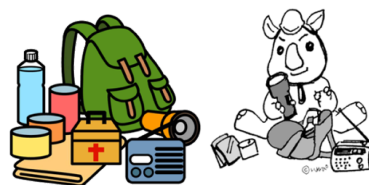
マンションで一人住まいの女性の備えをききました

一人暮らしの生活が少し落ち着いてくると、地震が多いなあと思うようになったのが、吉澤さんが備えをしなくてはと思われたきっかけだそうです。防災の知識は無かったので、ネットで調べた防災持ち出しリストを参考に、ネット通販や百元ショップで揃えたとのこと。確かに百元ショップには防災に使えるものがあります。詰めすぎて重くならないように注意して、リュックに入れてあるそうです。

食ではローリングストックを意識し、お鍋でご飯を炊くこともできるのは立派です。

しかし避難用バッグはそれを持って避難所に行くことを想定して皆さん揃えています、

避難所では簡単に使えないことを皆さんは知っていますか？周りの人は何も持っていない中、自分だけ食べるわけにはいかなかったと体験者は語ります。吉澤さんも自宅はマンション。それなら備蓄を利用しながら在宅避難が適しているように思えます。災害＝避難所といった単線の発想は考え直す必要があります。



手回しラジオ	ガーゼ	石鹸
懐中電灯	絆創膏	歯ブラシ
乾電池	携帯トイレ	保存食(ようかん)
軍手	ろうそく	飲料水(500ml ペットボトル)
さらし	ライター	保温ブランケット
消毒液		

【編集後記】

☆おかしな今年の梅雨ですね。平年並みとの言葉が嬉しく感じられてしまう最近の気象です。地球を考えた人間の行動の変化待たなしです。(宇田川)
☆松葉杖で歩くと気づきが多くありました。(中島)

☆被災者生活再建制度の講座を受けましたが、難しかったです。勉強し直します。(室伏)
☆避難のタイミング改めて難しいと思いました。全壊でない限り在宅避難を準備しようと思います。(付岡)